



寺田 正徳

議員



ウォーキングコースの交通安全対策

問 去る5月、散歩中の女性が車と衝突し重傷を負うという事故がまたも発生した。危険箇所について、どのような安全対策を取っていくか。

答 市が指定したウォーキングコース上で重大事故が発生していることを大変重く受け止めている。データなどもきちんと収集し、優先順位を付けながら事故が減るよう最大限の努力をしていきたい。

在宅高齢者等紙おむつ支給事業

問 今年度から要介護者に給付している紙おむつ支給事業に所得制限が設けられたが、その影響はどうか。

答 国の制度変更があり、41名の方が支給対象から外れた。別の福祉の提供も含め、トータルできちんとした福祉が提供できるように考えていきたい。



ウォーキングコースでの交通事故を受けて設置された注意看板

大河ドラマ「どつする家康」の放映

問 今回のドラマは本市の観光振興にとってもまたとない機会と思うが、何を発信していくのか。

答 本市には木原騷の戦いや可睡斎など徳川家康とゆかりのある地域資源が多くある。県や県西部市町の広域連携の中で積極的に情報発信していきたい。



山田 貴子

議員



学校教育

問 イングリッシュ・デイ キャンプの内容は。

答 小学3年生以上と中学生が、少人数で、英語漬けの時間を過ごす取り組みのほか「英検チャレンジコース」を設置し、英検3級以上のスピーキングやヒヤリングをALTとの対面により行っている。

問 外国籍の子どもの不就学を把握しているか。

答 平成22年度から毎年、市内の外国人の子どもの就学状況調査を行っている。県から送られてくる外国人学校の在籍状況の情報を加え、不就学の可能性がある外国籍の子どもの人数などを把握し、さらに、それらの子どもたちについて、市教育委員会の担当者が、直接一軒一軒家庭に足を運び、確認に努めている。



ALT (外国語指導助手) との対面による学習

産後ケアの実施状況

問 どのような事業を行っているか。

答 現在、県西部地区にある7つの助産院と5つの医療機関に委託している。母親の身体的ケアや保健・栄養指導、母親の心理的ケア、適切な授乳が実施できるためのケア、育児についての具体的な指導及び相談、生活の相談・支援などを実施している。



安間 亨

議員



ひろげよう、善意のミルク

問 別の母親から寄付された母乳で小さな赤ちゃんを救う「ドナーミルク」の普及について本市の考えは。

答 1500グラム未満で生まれた新生児の疾病予防や成長の一助として活用されるドナーミルクは、意義のあるものと理解しており、国や県の動向を注視していきたい。

問 ドナーミルクの正しい理解に向け、母乳バンクの周知啓発が必要では。

答 母子健康手帳の交付時や出産後の保健事業の実施の際に、妊産婦に対する母乳バンクの存在の周知啓発に加え、市のホームページなどにおいても、周知啓発を図っていきたい。

インボイス登録事業者への移行支援を

問 インボイス制度や助成の周知、商工会議所と連携した登録サポートを行うべきでは。

答 国税庁の特設サイトの誘導をはじめ、磐田税務署や商工団体の開催する説明会や相談会の案内、一導補助金や小規模事業者補助金制度の案内などをホームページで周知するとともに、メローねっとでも配信していきたい。



日本財団母乳バンクポスター